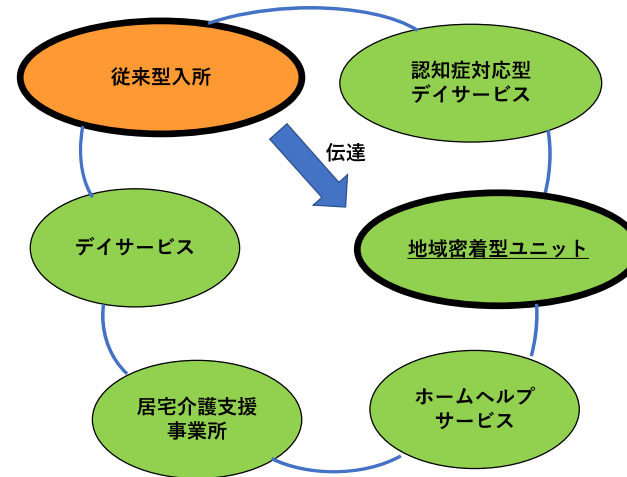


アドバイザー施設としての挑戦！

～同法人内へのノーリフティングケア マネジメント実践～

特別養護老人ホーム ねむのき

<ねむのき 施設概要>



平成30年より「従来型入所」がノーリフティングケアを導入。法人内⇒地域へのノーリフティングケアの伝達を目的とし、先行してノーリフティングケアを進める。

令和3年度9月にユニットノーリフティングケア導入説明会を開催。

<施設で広める目的>

ねむのきが所属する那珂川福祉会がノーリフティングケアで地域のパイオニアとなり、地域の方々に広める為。また、法人全体で取り組み職員の誰もがノーリフティングケアを実践しており、訪ねてこられた地域の方に誰もが説明できるような施設にする為。

<ねむのき 従来型入所と地域密着型ユニットの比較>

従来型入所

入所定員 60名
平均要介護度 4.2
介護職員数 23名
リフト対象者 9名
スライディングボード対象者 9名

地域密着型ユニット

入所定員 20名
ユニット数 2ユニット
平均要介護度 4.0
介護職員数 12名
リフト対象者 2名
スライディングボード対象者 3名

<地域密着型ユニット 職員の思い>

- トイレ誘導の時に重度の方を誘導しているけど、抱え上げることが辛い・・・でもトイレで排泄が出来る方だし。。。私たちのしている介護は古いの？
- 入所がノーリフティングケアを進めているけど、同じ事がユニットでできるんだろうか。
- 福祉用具の必要な方は少ないけど、本当にユニットにもノーリフティングケアは必要なの？
- 職員の腰痛者も多くなってきていて入所のようにノーリフティングケアを進めたい。



<地域密着型ユニット 導入経緯>

導入の経緯

- 腰痛発生者の増加！
- 抱え上げ介助対象者が多数いた（当たり前になっていた）
- ノーリフティングケア経験者 入所 ⇒ ユニットへ移動
↓
「もう抱え上げ介助はできない」と強い意志の元、導入が進められた。
- 入所ノーリフティングケア委員会に自ら導入の進め方・腰痛予防の資料の収集などの情報を集めていた
↓
ノーリフティングケアの目的の理解が重要だと感じ、入所ノーリフティングケア委員より導入手順を踏まえた説明会を開催し、導入を進めた。

5

<地域密着型ユニット 導入手順>

- ① ノーリフティングケアの説明（ノーリフティングケアの目的）
- ② ユニットの導入目的の設定
- ③ 導入時、腰痛アンケート実施
- ④ ノーリフティング委員会の設立
- ⑤ ノーリフティングケアの目的・二次障害の理解の説明会（2回目）

6

<①ノーリフティングケアの説明（ノーリフティングケアの目的）>



（令和3年9月27日）
ユニット職員全員を対象にパワーポイントを用いて説明会を開催。

導入前の不安の排除や二次障害・腰痛予防の必要性を理解する為に説明会を重点的に行う。

会議は月に1回開催。
統括（介護士）國領
健康管理（機能訓練士）大塚 2名が介入。

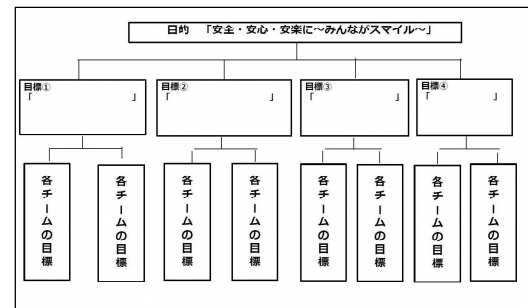


資料を用いて説明を行うことで、「なぜ必要なのか」という理解と「入所よりも抱え上げが少ないのに導入する必要があるのか」などの不安を排除する。

※資料は説明時に使用した資料を一部抜粋

7

<②ユニットの導入目的の設定>



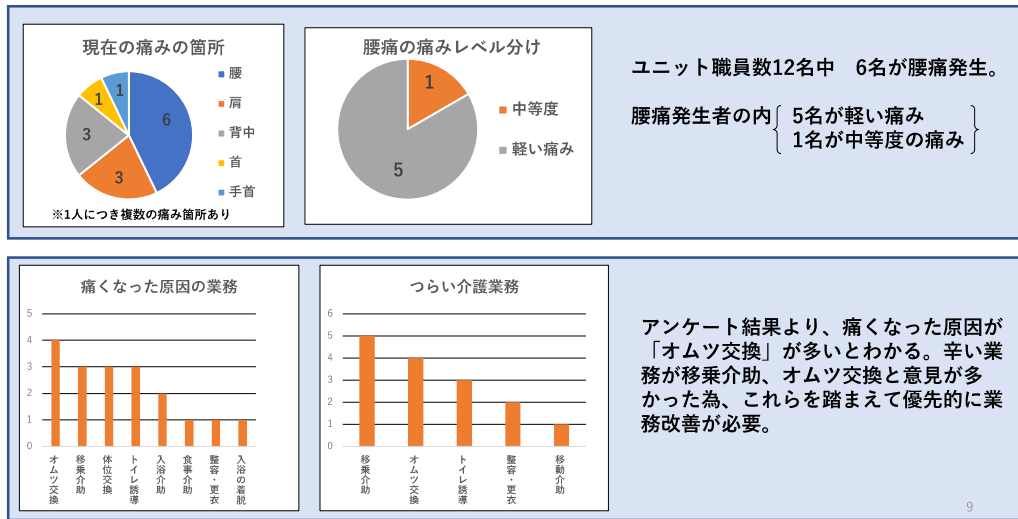
簡易的な理解のしやすい図を作成。図を用いてユニットの導入の目的を設定する。
目標の設定は2月の会議にて決定予定。

ユニット職員全員で目的を話し合うことで、ユニット独自の目的の確立と目的の共有を図る。

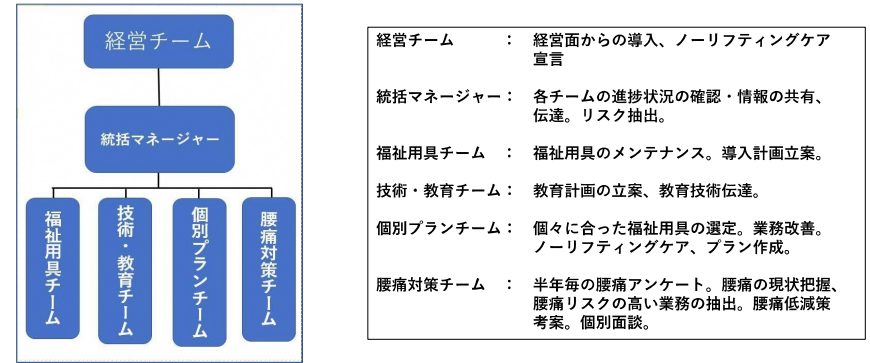


8

<③導入時、腰痛アンケート実施>



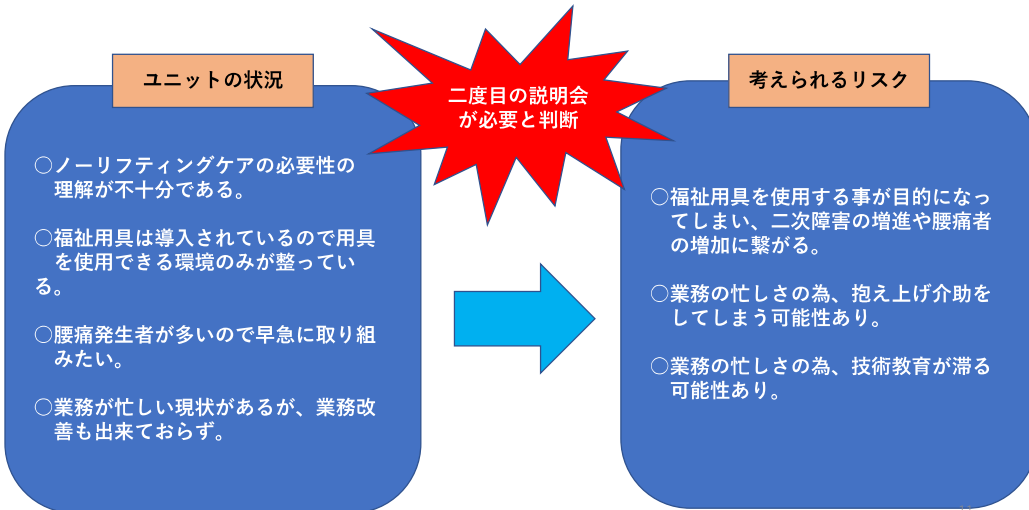
<④ノーリフティング委員会の設立>



運営組織の構築を実施。

左の組織図は入所の組織体制を図にしたもの。各チームの役割を説明し、ユニット独自のやり方で既存の委員会との共存を図っていただく。

<⑤ノーリフティングケアの目的・二次障害の理解の説明会（2回目）>



<まとめ・半年後までの伝達計画>

